

2019 年度新潟県歯科技工士会学術講演会

演題：「カービングによって歯の形態を学ぶ」

五十嵐渉・大沼誉英

歯科技工の作業で効率よく正確にワックスアップを行うためには、個々の歯の形態を詳細に記憶し、さらに観察力を身に付ける必要がある。そのためには、歯型彫刻を繰り返すことで鍛錬され、歯科技工士自身の技術力として得ることができる。

しかし、歯型彫刻は国家資格取得後、歯科技工学校を卒業して臨床の場に出ると技術的向上心はあるものの時間的余裕がなくなるためか、ほとんどの歯科技工士は自主的に行わなくなる。

そこで新潟県歯科技工士会では、非会員を含めた若手歯科技工士を中心として 1 泊 2 日の日程でのカービングセミナーを懇親会と組み合わせて行う計画をしている。前歯および臼歯の基礎的な形態をはじめ、唇・頬側面の表面性状の観察方法をプロジェクターを使って説明した後に、見本模型をもとに石膏棒を用いて彫刻する。彫刻後は参加者の中で上位の順位を発表することで競争心を煽り、より意欲的な雰囲気を出す狙いもある。懇親会と組み合わせることで参加しやすい雰囲気を作り、多くの若手歯科技工士に参加を募る。